

## 子宮内膜症と各種疾患(4)

## 子宮内膜症と月経随伴性気胸・喀血

平田 哲也

## Summary

胸腔子宮内膜症は、月経随伴性気胸、喀血などの臨床症状を呈する胸腔内の子宮内膜症のことである。月経随伴性気胸が最も頻度が高く、9割が右側に発症する。また、Diagnosis Procedure Combination (DPC)データより、女性の自然気胸全体では40歳にも発症年齢のピークがあり、月経随伴性気胸が関与している。一方、月経随伴性喀血は、若年発症が多く左右差はない。治療については、月経随伴性喀血はホルモン療法が奏効するが、月経随伴性気胸は再発率が高く治療に難渋することが多い。特に、月経随伴性気胸は再発率低減を目指した治療法を確立していく必要がある。

## Key words

月経随伴性気胸  
月経随伴性喀血  
子宮内膜症  
胸腔子宮内膜症  
DPC

## はじめに

子宮内膜症は子宮内膜類似の組織が子宮外に発生する疾患である。子宮内膜症の発生する部位は、腹膜、卵巣、ダグラス窩、子宮靭帯などの好発部位のみならず、頻度が低いながら腸管、膀胱、鼠径部、腹壁、胸腔などさまざまな部位に発生しうる。Clementらは、子宮内膜症の発生部位をcommon site, less common site, rare siteの3つに分類している<sup>1)</sup>。このうちless common site, rare siteに相当する子宮内膜症を稀少部位子宮内膜症と呼ぶ。胸腔子宮内膜症は、稀少部位子宮内膜症の1つであり、比較的稀であるがゆえに症例の経験の蓄積が困難なこと、診断の難しさ、治療に対する抵抗性、他科との連携の確保など、多くの問題を抱えている。

本稿では、この胸腔子宮内膜症に相当するいわゆる月経随伴性気胸、月経随伴性喀血について、われわれの得た知見を中心に解説する。

## 胸腔子宮内膜症について

胸腔子宮内膜症は、主に月経時に関連した時期に気胸、血胸、喀血などの呼吸器症状を引き起こす子宮内膜症のことであり、肺実質、横隔膜、胸膜表面に発生した子宮内膜症によって、月経随伴性気胸、月経随伴性血胸、月経随伴性喀血、肺結節などの臨床症状や画像検査上の所見を呈する。このうち最も頻度が高いのは月経随伴性気胸である。Josephらによると、月経随伴性気胸が

Tetsuya Hirata

同愛記念病院産婦人科部長